

令和5年4月1日に思う

誰もが待ちわびた春。穏やかな季節に包まれながら、このままコロナウイルスの収束を願ってやみません。

この時期、希望に満ちて人生のあちこちで新しいステージに立った人は多いことでしょう。その希望の隣にあるのが戸惑いでもあります。その経験は多くの先輩たちも同じです。慌てず焦らず初志貫徹をめざしてほしいと思います。

そうした中、わが村も大事な春を迎えています。かわかみ源流学園の開校が来春に迫っています。「さらに子どもたちを輝かせる」ために、大きな責任があります。すべての関係者が英知をしぼり万全を期す覚悟であります。

国では、いよいよ「子ども家庭庁」が発足します。子どもが自立した個人として等しく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、国を挙げて取り組む体制を構築するため、子ども政策の新たな司令塔とする、としています。学校教育環境を取り巻くさまざまな課題からも当然の流れであります。法律上の定めもあり、わが村では保育園併設型の義務教育学校としましたが、本来保育と教育の「垣根は不要では（私の持論です）」と考えます。

本紙先月号でも触れたように、「川上産吉野杉は免疫力を鍛える特性がある」ということです。心強いかぎりです。この吉野杉を、ふんだんに用いた舞台上で学力はもちろんのこと、人を敬い故郷を愛する子どもたちが、大人になって「わが学びのルーツは川上村にあり」と将来力強く語ってくれる子たちと出会えることを楽しみに、一層取り組みを加速強化します。ご理解ご支援をよろしくお願いします。